



PROFILE

神奈川県在住
木村夫妻(28歳)
挙式日:2023年6月17日
挙式会場:オーベルジュ飛騨の森
ゲスト数:1部23人、2部24人



高山市内の初級・高校の同級生。高校卒業後はそれぞれの道に進み、11年間の交際を経て2021年に結婚を遂げた。

森の中の非日常時間

「本当に大切な一人一人との時間を心に刻みたくて」

昼の部は親族と夜は友人と2部制パーティー
「ようやくきちんとプロポーズができました。眩しいほどの梅雨晴れとなったこの日山々の緑を望むテラスで親族から集めた花をブーケにして、祥作さんは既婚さんにして手渡しした。高校1年生から交際を始め、高校卒業後も交際は続いたが、祥作さんは神奈川県で就職、遠距離交際となった。途中、移動もできず、会うこともできず、このタイミングで祥作さんはプロポーズ。しかしオンラインしか手段はなかった。ふたりの出身地、高山で結婚式を、大切な二人感謝を伝えたいと、選んだのがオーベルジュでの2部制の結婚式。昼の部は、親族だけでの挙式後、レストランでのコース料理を楽しむ。夜の部は友人だけでのガーデンパーティー。実は快晴となったため、夜の部はシエラが急遽屋外のBBOに会場。ふたりがスパイス料理が好きだという一言から料理もスパイスBBOに。ふたりにもサプライズという粋な計らいだった。昼も夜も高砂席はなく、ふたりはゲストと同じテーブル席に着いて料理とおしゃべりを楽しんだ。私たち、食いしん坊なので、ナイシヨですけど、ドレスはコルセットなします。しっかり食べますよ。既婚さんが笑いがからこすり打ちしてくれました。」

ウエディングには、「特別な何か」があるようです。

はっきりと目に映るものかもしれないし

言葉にできないものかもしれないけれど、「挙げて良かった」と思える「特別な何か」。

それは歩きだすふたりへの、エールに満ちた贈り物になりそう――。

東海

Wedding!

※掲載している演出(プログラム)に関しては、会場とご相談の上ご検討ください。

構成文 / □□□□□□ (4組目)
撮影 / □□□□□□ (4組目)
□□□□□□ (2組目)
□□□□□□ (3組目)
D / □□□□□□



01.父との入場から始まった人前式。「何でも肯定してくれる父ですが、縁章から神前川に行くことに関しては、そんなに遠くに行かなくても、と寂しそうでした。母は満ち足りた笑顔で「当初は喜んでくれたんですけど」と笑う咲那さん。「我が娘ながらカワイイな」と、この日は終始笑顔の父だった。02.周囲の縁にひときり咲いた生花をあしらったベール。03.星の部の料理。全ての料理にワインをペアリング。いずれも手の込んだ料理で観客の会話を弾んだ。04.夜の部の屋外装飾も生花と緑で、ふたりは各テーブルに着いて友人と料理を楽しみ、この日は遠方からの友人らと一緒に前泊した。05.人前式では親族から花を集めてブーケセレモニーに臨んだ。06.この日一日、BGMは「バンドマン」の生演奏。07.星の部では、ふたりが乾杯の挨拶。08.09.日が暮れるという落ち着いた雰囲気。お祝い事の神前に使うヤキ鍋で作ったピリアニ、ゲストは豆鼓を打った。10.メインは御火で豪快に焼き上げた鹿野のBBQ。「こんな披露宴料研初めて」とふたりもゲストも大興奮

いつものふたり、いつものみんなだけど、
“特別な何か”がある

What a Wonderful